

『傳説の時代』 序

夏目漱石

青空文庫

私はあなたが家事の暇を偷ぬすんで『傳説の時代』をとう／＼仕舞迄譯しまひまでし上げた忍耐と努力に少からず感服して居ります。書物になつて出ると餘程よほどの頁數になるさうですが、嘸骨さぞの折れた事でせう。原書は私の手元にもあるから承知してゐますが、一寸ちよつと見ると四六版の小形の冊子に過ぎませんけれども、活字は細こまかし、上下は詰つてゐるし、讀むのにさへ隨ずいぶ分の時間は懸かかります。況まして一行毎ぎょに譯して行くとなつたら、それを專業にする男の手でもさう容易たやすくは出來ません。況まして夫の世話をしたり子供の面倒を見たり弟の出入に氣を配つたりする間に遣やる家庭的な婦人の仕業しわざとしては全くの重荷に相違ありません。あなたは前後八ヶ月の日子にっしを費つひやして思ひ立つた翻譯を成じやうじゆ就じゆしたと云いつて寧むしろ其長きに驚ろかれるやうだが、私は却かへつて其迅速そのじんそくなのに感服したいのです。

出版に就つて私の序文が御入用だとの仰おほせは謹んで承りましたが、私はあらゆるミスに就つて何事もいふ權利を有もたない無學者なのだから少からず困却します。私は希臘ギリシアの神話に就ついて、あそこを少し、こゝを少し、と云つた風にうろ覺えに覺えてはゐますが、系統的には研究もせず、批判もせず、漫然と今日迄まで經過して來た事を、今日あなたの前に自白しなければならなくなりました。あなたの御譯しになつた原書は、今でもちやんと私の書架しよかの

中に飾^{かざ}つてあります。それを買つたのは何時^{いつ}の頃の事か覚えてゐない位^{くらゐ}ですから定め^{さだ}めし古い昔だらうと思ひます。けれども其^{その}昔に買つた本を、今日迄^{まで}まだ一度も眼を通した記憶がないのも慥^{たし}かな事實ですから、私は希臘^{ギリシア}の神話にかけては、あなたよりも遙^{はる}かに無知識なのです。立派な序文の書けやう筈^{はず}がありません。

御存じの通り私は英文學出身のものですから、高等學校在學の頃から歐洲文學の根柢^{こんてい}に横^{よこた}はる二つの寶庫（聖書と希臘^{ギリシア}神話）をいつか機會を見て思ふまゝ熟覽して置きたいといふ希望を抱いてゐましたが、御恥づかしい事に、此^{この}機會は永久に多忙な自分の眼前に遂に出現せずに濟^すんで仕舞^{しま}ひました。

私が高等學校にゐる頃同級生に松本亦太郎（今の文學博士）といふ人がゐました。此人^{この人}は其^{その}頃熱心な基督^{キリスト}信者でしたが、ある時私に、聖書を日に何頁づゝとか讀むと、丁度^{ちやうど}三年目に新舊兩約全書を通讀する事になるといつて、それを日課として毎日怠^{おこた}らず繰返^{くりかへ}してゐるやうでした。私は其^{その}話を聞いた時、たとひ私が耶穌^{やそ}教徒でないにせよ、バイブルは文學上必要の書物だから、さういふ課程をこしらへて、長い間に通讀したら嚙^{さそ}有益だらうと思つて、既に遣^やり始めようと迄決心した事があります。然^{しか}し好きな事にばかり夢中になり易い、又厭^{いや}な事に始終^{しじゆう}追ひ懸^かけられてゐた其^{その}頃の私には、ついに夫^{それ}すら果さずじま

ひに終りました。夫^{それ}だから、私のバイブルに於ける知識は非常に貧弱なものです。さうして私の希臘^{ギリシア}神話に於^{おけ}る知識も亦^{また}これに劣らぬ程^{あはれ}憐なものなのに過ぎません。

それがため學校を出て教師をしてゐる時分^{じぶん}には、よく雙方の故事故典で悩まされました。仕方なしにバイブルのコンコーダンスを左右に置いたりクラシカル字彙^{じみ}といふやうなものを机上^{そな}に具へたりして、何^どうか斯^こうか御茶を濁^{にご}して通りました。甚^{せつ}だ切ない事でした。切^{せつ}ない許^{ばかり}ならまだしも、時によると、馬鹿々々しくて腹の立つ事さへありました。

あなたが何^どんな動機から神話を譯して御覽になつたかはまだ解らないが、恐らく文學を研究する人の手引草^{てびきぐさ}として許^{ばかり}ではないでせう。今の人の手にする文學書にはギリシアとかバツカスとかいふ呑氣^{のんき}な名前は餘^{あま}り出て來ないやうです。希臘^{ギリシア}のミソロジーを知らなくとも、イブセンを讀むには殆^{ほと}んど差^さ支^しないでせう。もつと皮肉にいふと、人生に切實な文學には遠い昔しの故事や故典は何^どうでも構^{かま}はないといふ所に詰^{つま}りは落ちて來さうです。あなたもそれは御承知でせう。それでゐてこんな夢のやうなものを八ヶ月もかゝつて譯したのは、恐らく餘^{あま}りに切實な人生に堪へられないで、古い昔の、有つたやうな又無いやうな物語に、疲れ過ぎた現代的の心を遊ばせる積^{つも}りではなかつたでせうか、もし左右^{さう}ならば私も全く御同感です。其意味を面倒に述べ立てるのは大袈裟^{おほげさ}だから止^よめますが、私は

自分で小説を書くとそのあとが心持ちが悪い。それで呑氣な支那の詩などを讀んで埋め合せを付けてゐます。夫から大病中徒然を慰めるため繪（繪といふ名はちと分に過ぎるから、繪のやうなものと云つた方が適切ですが）其繪を描いて遊んでみると、矢張り仙人だの坊主だの山水だのが天然自然題目になります。是もある意味に於てあなたの神話に丹精を盡したと同じ動機になるのではありますまいか。弱い神經衰弱症の人間が無暗に他の心を忖度して好い加減な事を申して濟みません。もし間違つたら御勘辨を願ひます。

最後に神様の名前の發音に就いて一寸申上げます。あなたの發音法は大部分大陸讀方（コンチネンタル・メソッド）を用ゐられた様ですが、日本で云ひ慣らされたバツカスとかクーナスとか云ふのは英吉利讀にされたと見えますから其邊は一寸讀者に注意して置いて遣らないと悪いだらうと思ひます。夫から又羅甸讀にしてもクオンチチイを付けて發音しないで、のべつに羅馬字綴りの讀み方見たやうに遣つたのがあるなら、夫も序に斷つて置いて御遣んなさい。

序を書きたいのは山々ですが序らしい序が書けないので此手紙を書きました。若し序の代りにでも御用ひが出来るなら何うぞ御使ひ下さいまし。以上。

六月十日

野上八重子様

夏目金之助

(大正二年)

青空文庫情報

底本：「ギリシア・ローマ神話」ブルフィンチ作、野上弥生子訳、岩波文庫、岩波書店

1978（昭和53）年8月16日改版第1刷発行

1988（昭和63）年8月15日第17刷発行

※底本は、物を数える際や地名などに用いる「ケ」（区点番号586）を、大振りにつくっています。

入力：鈴木厚司

校正：kamille

2004年7月15日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

『傳説の時代』 序

夏目漱石

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>